



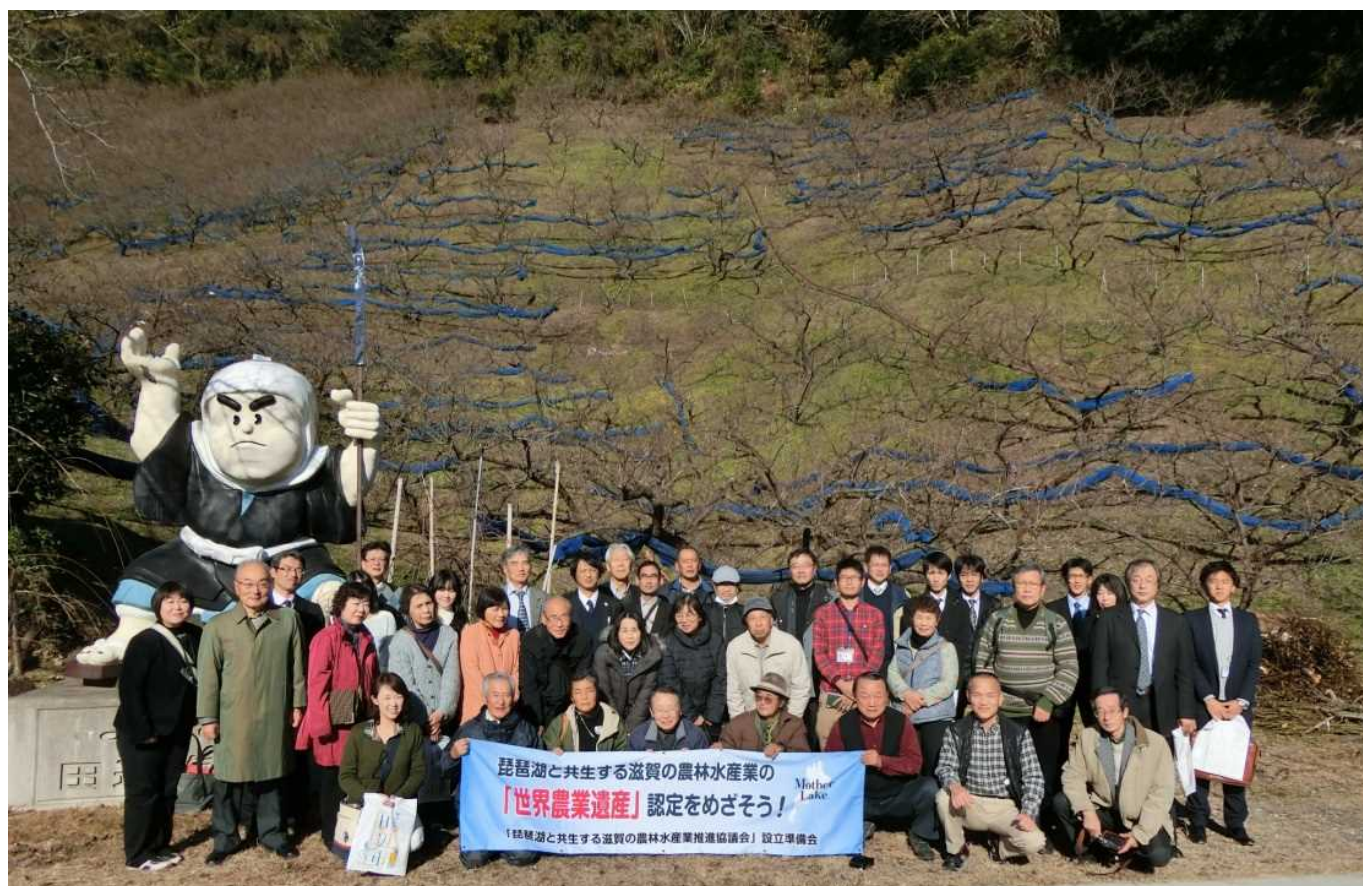
世界農業遺産 先進地視察研修会

～みなべ・田辺の梅システム～

記録集

日時 : 2016年12月19日(月) 8:00～18:30

視察先 : 和歌山県みなべ町・田辺市



「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会」設立準備会

開催目的

「世界農業遺産」認定に向けた取組の推進や、強い農林水産業づくりと活力ある地域づくりに向けた活動を行うことを目的に、さる平成28年9月15日に、「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会」設立準備会を立ち上げたところ、県民の皆様をはじめ、団体、企業など多様な主体の皆様に参加いただいています。

このたび、準備会員の皆様と共に国内で先に認定を受けている地域を視察し、滋賀の「世界農業遺産」認定に向けての取組推進や認定後の活用方法などについて学ぶため、先進地視察研修会を開催しました。

プログラム

1. 日 時：12月19日（月）
2. 視 察 先：和歌山県みなべ町・田辺市 「みなべ・田辺の梅システム」
3. 行 程

7：45	県庁（大津駅北口）集合
8：00	出 発
11：00～11：45	うめ振興館（みなべ町）
12：00～12：30	国民宿舎紀州路みなべ（みなべ町） 昼食
13：30～14：00	紀州石神田辺梅林（田辺市）
14：20～14：50	紀州備長炭記念公園（田辺市）
15：00～15：30	J A紀南ファーマーズ [®] マーケット紀菜柑（田辺市）
18：30	県庁（大津駅北口）解散
4. 参加者：40名

主催

滋賀県・「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会」設立準備会

車内にて

開催挨拶

準備会会長 雲林院 智史（滋賀県農業協同組合中央会）

皆さん、おはようございます。

準備会の会長を務めさせていただいておりますJA滋賀中央会の雲林院と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

また皆様には、JAの事業を色々とお支えいただきありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。

今日は、たいへん天気も良く、気分良く視察研修ができるかなと思います。



さて、今ですが、TPPそれからEUとのEPA交渉が進められております。TPPにつきましては、米国次期大統領のトランプ氏による離脱が表明されたことで、これからどうなるかというところですが、これに併せ政府の方も、農地の集約化や農業の効率化を大きく進めているところです。もちろん政府の農業の成長産業化という部分については、たいへん重要な点でございますし、私どももしっかり取り組んでまいりたいと思っているところです。

その一方で、伝統的な農業や小規模な農業、環境・循環型農業の重要性が、最近あまり語られることが少なくなったなと感じています。そういった意味では「世界農業遺産」の取組を通じて、こうした農業の価値観が醸成されていくことは、たいへん重要だと思っています。そして滋賀県の琵琶湖を取り巻く環境農業は日本だけでなく、世界にも十分アピールできると思っており、準備会を立ち上げた以上、本当に真剣に目指していくんだという気持ちを持って進めてまいりたいと思います。

本日の研修会がたいへん有意義なものになりますようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

「世界農業遺産」認定に向けての滋賀県の取組について

青田 朋恵（滋賀県農政水産部農政課）

今日一日、楽しく過ごしていただければと思います。どうぞよろしくお願いします。



皆様は、この「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会」設立準備会に御入会いただいておりますので、すでに御承知かと思いますが、滋賀県の取組について少し説明させていただきます。

「世界農業遺産」は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり発達し、形づくられてきた農業上の土地利用、伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システムを国連食糧農業機関（FAO）が認定する仕組みです。

これを滋賀県では、琵琶湖を取り巻く様々な環境と一体になった農林水産業が、世界に対してもPRできる非常に素晴らしい取組だということで、「世界農業遺産」認定を目指したいと考えています。

もちろん認定が全てではありません。本日、皆様が集まっていたように、それに向かって活動を盛り上げていき、農林水産業を支えていき、生産者の方々だけではなく、消費者の方々も一緒になって頑張ることが重要だと思っています。

今日行きます「みなべ・田辺」の取組ですが、認定を受けられてから益々頑張っておられます。これらを参考にしながら、滋賀県ならではの取組を発信できるように頑張っていきたいと思います。行く先々で、滋賀県だったらこんなことができれば良いなあ、といった考えを持っていただき、膨らませていただければと思います。

また、準備会の会員募集についてですが、皆様にはいち早く御応募していただきましたが、活力ある地域づくりに向け、さらにこの活動を広げていくことが非常に有意義と考えておりますので、お友達、ご近所さん、地域の方々に御紹介いただければと思います。

次に、今後の「世界農業遺産」関連のイベント情報をお知らせします。

まず、「県広報誌 滋賀プラスワン1月号（1月3日発行）」に“「世界農業遺産」認定を目指して”という特集記事が掲載されますので、ぜひ御覧いただきたいと思います。

来年（平成29年）2月19日（日）には、“第2回シンポジウム”を計画しています。お米と湖魚が融合した「ふなずし」は滋賀県の大きな魅力とっており、今回は、「ふなずし」の魅力を色んな方面の方からお話いただき、最後には試食と、滋賀の地酒の試飲もできるようにと考えています。

続いて、来年（平成29年）3月11日（土）には、“「近江米」&「近江の漬物」魅力発信フェア”を計画しており、このイベントで「世界農業遺産」のPRも行いたいと考えています。場所は、イオンモール草津のセントラルコートです。近江米と漬物の試食、三日月知事とお笑い芸人さんとのコラボなどを予定しており、こちらは無料で申込み不要です。お時間がありましたらぜひ御来場下さい。

最後に、来年（平成29年）3月17日（金）には、この設立準備会の総会と勉強会を開催したいと思います。勉強会では、日本で初めて認定を受けられた石川県能登地域の事例について、お話しいただく予定です。会員であります皆様方の参画をお願いしたいと思います。

詳しくは、およそ月2回程度お送りしている「会員通信」などでお知らせいたします。宣伝が多くなってしまいましたが、イベント等を通じまして、皆様方のより一層の盛り上がりをお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。



視察先の「みなべ・田辺の梅システム」について

藤江 学（滋賀県農政水産部農政課）

本日研修に参ります「みなべ・田辺地域」について、少し予習をしておきたいと思います。

この地域では養分が乏しい礫質土壌の斜面を活用して、高品質な梅の栽培が、400年以上続いています。

関係市町は、1市1町（みなべ町、田辺市）で、この2つの市町で梅林の広さが約4,000haあり、毎年5万トン前後の収穫量で、これは日本の梅生産の約50%を占めています。皆様もよく御存知の「南高」などの優れた品種が栽培されている地域です。

また、この梅林に隣接した雑木林がありまして、こちらは薪炭林として保全され、日本の生産量の約15%にあたる年間500トン近い炭が生産されています。軽くて良質な「紀州備長炭」が生産されています。

次に、「みなべ・田辺の梅システム」の概要について説明します。



山の上部に残されている薪炭林は、山の斜面の崩落を防止するとともに、そこに雨水を貯め、養分とともに少しずつ斜面の下にある梅林に供給しています。この地域の礫質土壌の傾斜地は、梅の栽培には適しているようですが、表土が薄く、崩れやすいという難点から、梅林の周辺や、急な斜面を、薪炭林とすることで管理を行き届かせています。

この薪炭林では、「択伐」という技術が用いられ、炭づくりに適する材料や、成長の妨げとなる木を選んで伐採する技術が、製炭業さんによって昔から受け継がれています。

薪炭林の下の梅林では、下地に草を生やして表土の乾燥と流出を防ぐとともに、刈り草を肥料として利用されています。そして、薪炭林に生息するミツバチが早春に、梅の受粉を助けるとともに、梅の花は蜜をミツバチに提供し、梅とミツバチとの共生が成り立っています。梅が無ければミツバチは育ちませんし、ミツバチが無ければ梅が育たないという関係です。

さらに、ミツバチの生息場所が薪炭林でありますことから、薪炭林と梅林とミツバチとの共生関係が築かれているという点で、審査における評価が高かったと聞いております。

また、現代の梅栽培についても、梅の改良を重ね、「南高」に代表される地域に適応した優れた品種を生み出すとともに、加工技術も磨き、安全・安心、健康志向など、現代のニーズに応じた食品の開発をしておられるということです。

そして、薪炭林や梅林から流れて来た水は、さらに下にあるため池に貯えられ、里地での米や野菜といった多様な農業に利用されています。

これら全てがこの地域の農業システムとして、養分に乏しい崩れやすく保水性の少ない斜面を利用した持続的な農業を可能にしているシステムという事で、ちょうど1年前になりますが、平成27年12月15日に世界農業遺産に認定されたという事でございます。

うめ振興館（みなべ町）

世界農業遺産 みなべ・田辺の梅システムについて

中早 良太さん（みなべ町 うめ課）

皆さん、こんにちは。みなべ町うめ課の中早と申します。短い時間ではございますが、昨年12月15日に認定されました「みなべ・田辺の梅システム」についてお話をさせていただきます。皆さん、世界農業遺産については、ある程度御存知でしょうか。（数名挙手）それでは、少し、世界農業遺産についてもお話をさせていただきます。



まず、みなべ町のうめ課ですが、日本にももちろん、みなべ町にしか“うめ課”はありません。トップが“うめ課長”ですが、各地で時々、サインを求められることもあるそうです。

みなべ町は、平成16年10月に平成の大合併で誕生しました日本一の梅の産地です。世界農業遺産に取り組む理由は、梅干しの消費量が近年減少してきたことや価格が低迷しているため、その復興のため農業遺産の取組を平成25年より始めました。時間の無い中での取組でしたので、本日の滋賀県のように大勢の住民の方が集まったり、意見を取り入れたりはあまりできませんでした。みなべ町では、世界農業遺産認定後から本格的に住民の皆様との意見交換等を行っているところです。

世界農業遺産についてですが、FAO（国連食糧農業機関）におきまして、2002年から当初は発展途上国向け支援策として始められたものです。FAOは、世界の貧困と飢餓を撲滅させ食料を安定的に供給することを目的としています。

その昔、1940～1960年代の“緑の革命”で、高収量作物の導入、農地の拡大や農薬等の大量投与を行い、食料生産が約3倍に伸びましたが、一方で農地の質の悪化、地下水の枯渇、機械コスト増による農家経営の圧迫などの問題が生じ、自然と人との共生を破壊する結果となりました。

そのため反省の意味を込め、持続的な農業への転換ということで、この世界農業遺産のプログラムがスタートしました。

世界農業遺産は、文化遺産や自然遺産のような“過去の遺物”ではなく、時代の変化に適応しながら、進化を続けていく“生きている遺産”です。次の世代に継承していくため、今後もダイナミックな保全活動が重要になります。



この世界農業遺産には、5つの認定基準があります。

- ①安定的に食料が栽培され、住民の生活が安定していること。
- ②食料生産に伴い、生物もまたしっかり保全されていること。
- ③昔ながらの伝統的な農法が、今も発展しながら伝えられていること。
- ④生産だけでなく、農村において伝統的なお祭・行事が継承されていること。
- ⑤里山を循環する農業、水管理がされていること。

現在（2016年1月現在）、世界では16ヶ国36地域で、世界農業遺産が認定されています。大部分がアジア地域で、日本では8地域が認定されています。

それでは、「みなべ・田辺の梅システム」についてです。

この認定エリアについては、みなべ町は町全域です。田辺市は、市のエリアとしては龍神温泉を含むかなり広範囲ですが、認定については、旧の田辺市だけになります。これについては、この地域の土壌が関係しており、礫質で砕けやすく、水はけが良く養分が蓄えられにくい土質の地で、山を開墾し梅栽培が始められた地域として限定しています。地域の概要ですが、森林が62%、農地が20%です。農地の内、約9割が梅栽培です。



梅は、もともと中国から薬として伝わってきたとされていますが、“梅干し”という日本独特の加工食品になっています。昔から健康食品としての“梅”ですが、近年になり医学的に証明しようということで、みなべ町では、胃がん予防、糖尿病予防の特許を取っています。生活習慣病予防、疲労回復等にも良いとされています。



梅システムですが、山を開墾して全てを梅林にするのではなく、崩落防止と水源涵養の役割を担う“薪炭林”として森を残すことで、根があまり強くない梅の栽培を可能にしています。この地域の9割を占める“南高梅”をはじめ、梅のほとんどの品種が、自分だけでは受粉できないという特徴があり、受粉作業を助けるのが、薪炭林に生息するニホンミツバチになります。ミツバチにとっても早春の時期に咲く梅の花の蜜が、冬の時期を終え1年間の活動を始めるにあたっての大切なエネルギー源になります。このニホンミツバチは、すごく数が減ってきており、この地域では西洋ミツバチも使っています。



世界農業遺産認定後の取組ですが、認定申請中に住民からの十分な意見が取り入れられなかったこともあり、農・林・観光専門部会による世界農業遺産の活用を検討しています。また、認定8地域による広域連携PRや販売促進事業として、首都圏での取組や自然体験ツアーの造成、海外での販路拡大を目指し、中国・台湾・インドへの市場調査を行っています。さらに、世界農業遺産の活用リーダーを育成するため、研修等を実施しています。その他に、ロゴマーク作成や、シンポジウム開催、啓発資料の作成を行っています。

うめ振興館

平成16年(2004年)10月1日、南部町と南部川村が合併し、名実共に日本一の梅の町、「みなべ町」が誕生し、この『うめ振興館』は、その日本一の梅の町を、全国に情報発信する拠点施設
(みなべ町ホームページより)



- 1階 歴史ゾーン : 「梅」と「旧南部川村」を歴史的な解析で展示
- 2階 梅資料ゾーン : 梅林大型パノラマ模型・マジックビジョン・科学コーナー・文学・体験ゾーンなど様々なブースに分かれたメインフロア
- 3階 道の駅みなべ川 : みなべ町の物産品の展示・即売コーナー

昼食 国民宿舎紀州路みなべ（みなべ町）



国民宿舎紀州路みなべ

青い海に抱かれた日本一の「南高梅」の里に建つ「海を楽しむ宿」

宿の周辺では海水浴、磯遊び、スキューバダイビング、ハワイ発祥のマリンスポーツ・パドルボード体験など四季を通じて楽しめ、南紀白浜のアドベンチャーワールドやハワイ・ワイキキビーチの姉妹ビーチである白良浜にも近く、世界遺産の高野山・熊野古道観光にも便利な立地。

（国民宿舎紀州路みなべホームページより）



午後の車内にて

紀州田辺の梅について

廣畑 賢一さん（田辺市 梅振興室長）

皆さんこんにちは。田辺市梅振興室の廣畑です。先程のみなべ町うめ課と同様に、田辺市の梅振興に関する専属の室でございます。

私どもの仕事としましては、年間を通じて梅の仕事をしております。梅の消費促進や、最近では小学生への梅の食育・出前授業や世界農業遺産のお話をしております。世界農業遺産については、既にみなべ町の方で聞かれたと思いますので、私の方からは、田辺市の話を中心にさせていただきます。



田辺市は、平成 17 年の平成の大合併で、5 市町村が合併しました。非常に面積が広くなり、滋賀県の 1/4 ぐらいの面積が 1 つの市になっています。同じ市内でも田辺から本宮まで車で 1 時間 15 分ぐらいの移動時間がかかります。面積はすごく大きいのですが、人口は 7 万人あまりです。

ちょうど、このバスの車窓から田辺湾が見えてきましたが、去年の 9 月に国立公園になりました。非常に穏やかな海でして、隣の白浜町は、アドベンチャーワールドがあり皆様もよく御存知だと思います。

紀州田辺の梅ですが、この辺りは日本一の梅の産地で、日本の生産量の 6 割ぐらいあります。主な品種としては、「南高梅」や「古城梅」が主力となっています。

「南高梅」は 50 年ほど前に品種登録されたものです。もともと高田梅という梅の樹の中に非常に紅をさす変わり枝がありまして、それを品種改良したのですが、名前の由来は、その時に調査・研究に非常に協力されたのが、南部（みなべ）高校の先生と生徒さんでして、そこから「南高梅」という名前が付いたと言われています。他には、南部（みなべ）と高田梅から、「南高梅」とい



う説もあります。

この地域の約 9 割は「南高梅」で、先程申しましたとおり紅をさすのが特徴で、他の梅の種類には紅をさす特徴はありません。非常に肉厚で皮が薄く、特に梅干しに優れていると言われています。

梅の歴史ですが、中国からの移植説と、元々から日本にあったなど諸説あり定かではありませんが、文献や学者の多くは中国原産地説をとっています。日本の遣隋使・遣唐使の頃、中国では青梅を燻製にして薬に使われていたそうで、それを持ち帰ったのが日本での梅の始まりと言われています。

なぜ、この紀州で梅栽培が盛んになったかですが、江戸時代の初め、この地を治めていた紀州徳川藩田辺領の城代家老が、やせ地を利用し梅の栽培を奨励し、免租地として保護政策をとったため、梅栽培が広がったと言われています。

梅栽培が急激に増加したのは、大きな 2 つの世界大戦の頃で、戦時中の食糧として梅干しの需要が増加しました。その後、昭和 56 年頃より、自然食品や健康食品ブームに乗って、梅干しの消費量が増えていきました。その頃からこの地域が、質と量共に日本一の産地になりました。

最近では、日本の人口が減っているということもあり、梅干しの消費量が非常に減っています。子どもの頃からもっと梅を知ってもらいたいと思い、食育もやっています。昔は食卓にもあったかと思いますが、核家族化して、今の若い世代のお父さん、お母さん方があまり食べなくなったことも影響しているのかなと思います。

梅の花は2月初旬から3月中旬頃までで、2月の中旬あたりが非常に見頃です。花も良いのですが、香りが非常に良いですね。この頃に受粉してその後、実がなっていくわけですが、梅は自家受粉できないんですね。「南高梅」は、南高梅どうして受粉できません。受粉樹という別の品種の樹を南高梅 3~4 本あたりに 1 本植えて結実させ



ます。その際、非常にミツバチの役割が重要になってきます。今は、栽培面積が増えているので、西洋ミツバチを借りてきて梅畑に置いています。昔はニホンミツバチを使って受粉をさせていました。このことが世界農業遺産においても非常に評価された点です。

昔は、梅も高く売れませんでしたので、農家の方々は、冬場には山に入り炭を焼き、夏場は梅を収穫し、天日干しをして生計を立てておりました。だから炭というのは梅とは全く関係が無いようですが、この地域では農家にとっては、1年のサイクルの中に入っていました。このことは、世界農業遺産システムの中でもフォーカスされました部分になります。

そして、このシステムで評価されたもう一つの理由は、薪炭林に住むミツバチとの共生ですね。このことは評価の点で非常にウエイトが高かったと思います。ミツバチがいないと梅が受粉されず実がなりませんし、逆にミツバチにとってもこれから暖かくなり活動する上で、エネルギーを蓄え、その後の繁殖に備えるために重要なんです。梅の花は、1年のうちで一番最初にまとまって咲く花なんですね。それでこういう関係から、農家は誰に言われることもなく自然とミツバチを大切にするようになったんですね。

この地域は、梅栽培の他にミカンの栽培も盛んで、梅との複合経営が多くあります。和歌山と言えばミカンも日本一ですが、この辺りでは“温州みかん”より“柑橘類”が多く栽培されています。ミカン類で言うと、八十数種類ありまして、ほとんど1年中ミカンが取れます。そういった複合経営が盛んなのは、梅はミツバチや他の花蜂、メジロによって受粉されないと実がなりませんので、梅の花の咲く頃に雨が多かったり、風が強かったりすると、花粉が飛ばないんですね。実がならない状態になり、年によって作況の差が激しいのが梅だと言われていています。今年も3月27日にひょうが降り、約13億円の被害が出ました。気候に非常に影響を受けるのが梅になります。

このあと、石神梅林を見ていただきますが、この青いネットは何だと思いませんか。梅が成熟し完熟してくると地面に落ちる前に、このネットを梅林に敷きつめます。梅の実が地面に落ちた時に、傷が付いたり虫に食べられたりするのを防ぐ役割を果たします。それと傾斜地が多いので、ネットを敷くことにより、自然と下の方に転がってくるんです。傾斜が緩くなった所で溜まりますので、魚を獲るような網を使って収穫をします。効率の良い収穫の仕方です。収穫時期以外は、(写真のように)束ねて木に置いておきます。ネットの長さや幅が決まっており、ネットを外してしまうと分からなくなるので、このように年中木に吊しています。



田辺では、平成16年に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が登録され、外国からのお客さんも多いです。国で言うと、オーストラリア、ヨーロッパ、アメリカからのお客さんが多いです。少人数で1~2週間かけて熊野古道を歩かれます。そして最近では、熊野古道にプラスして農業体験が求められており、少人数の体験型観光に志向が変わりつつあります。

田辺市には、世界遺産と世界農業遺産と、世界が認めた遺産が2つあります。全国の市町村で2つの遺産があるのは、田辺市だけなんです。“ダブル世界遺産を体験できるまち”として観光に力を入れています。

これから行きます石神の梅林は、こぢんまりした梅林ですが、他の梅林と比べ観光地化されていない点、他の梅林に比べ標高が高くロケーションも良いことから人気がありまして、リピーターも多いですね。



(パンフレットは、田辺市ホームページよりダウンロードできます)

世界農業遺産認定後についてですが、地方創生の交付金をいただき、協議会が主体となり色々な取組を行っています。地域で専門部会を4つ作り、今後の活用方法を検討しています。認定前は時間も無かったものですからアクションプランを行政主体で作ってしまった関係で、住民の皆様が自らやろうとすることを今練っています。部会の中でも言われていることですが、世界農業遺産自体の認知度が、日本においても、世界においても非常に低いので、この認知度を高めるような取組をしなければならないと思います。

あとよく言われるのが、“世界農業遺産に認定されれば、たくさん物が売れるようになるのか？”ですね。認定を受けたからといって即座に梅が売れるようには決してならないです。世界農業遺産をひとつのきっかけとしながら、戦略・

物語をうまく作り、ミツバチや天然資源をうまく活用した農業をやっている事を伝えることで物を売っていかないと、なかなかうまくいきません。滋賀県さんはエリアも広く、これから非常に大変ですね・・・認定を受ける前よりも受けた後の方がはっきり言って厳しいと思います。

今日は、赤穂とのコラボ商品の梅干しを資料に同封しています。赤穂市に「塩の国」という施設があるのですが、そこで作られた塩を使って梅干しを作り上げました。流下式塩田で非常に手間暇をかけ作られた塩で、一般には流通はしていませんが、その塩を田辺市にわけていただいて



作った梅干しです。普通に売られている塩に比べゆっくりと作られた塩ですから、梅干しも非常にまろやかに仕上がっています。昔ながらのしょっぱい梅干しです。滋賀県の美味しいお米と一緒にどうぞ味わってください。

お帰りの際は、ファーマーズマーケットでトイレ休憩も兼ねまして、今の時期は、みかんが非常に美味しいので、御試食をなさってからどうぞお買い求めください。もちろん、梅干しも色々ございます。梅干しは、昆布や鰹で出汁をとって漬け込んだ梅干しや、蜂蜜で漬け込んだ梅干しが最近では主流になります。先ほど申しましたような塩と梅で作った梅干しは、塩分が22%以上あり“白干し梅”と言います。添加物は一切入っていません。主に農家が漬け込んでおり、塩分が高いため、非常に保存が効きます。農家はその年々の流通価格を見ながらそれを出荷します。加工会社は、原料として農家から白干し梅を買ってから、塩分を下げた味付けをしてスーパーなどで販売します。



(紀州石神田辺梅林に到着)

紀州石神田辺梅林

紀州石神の田辺梅林について

石神 忠夫さん（紀州田辺観梅協会会長）

皆さん、たいへんな場所へお越しいただき、さぞびっくりされたかと思います。

ここの集落は、石神と言いまして、戸数も少なく、閉ざされた地域です。外部との交流が非常に乏しかったのですが、昭和38年に長老が都会の人に見てもらおうということがきっかけで観梅事業が始まりました。最初は、事故でも起きたらどう責任を取るのかなど、長老との押し問答もありました。私も当時22歳でした。



ここの土地は、非常に水はけが良く梅の栽培に非常に適しており、先人達が何代にもわたり梅栽培を行ってきました。傾斜が30~40度あるなかで私達は作業をしています。近代化が取り入れられない程の傾斜ですが、世界農業遺産のモデル地として現地調査の対象になりました。



非常に急傾斜で水の保水力が少ないので、薪炭林を上部に残し、自然の力を活かして、治水・保水・防風といった役割を持たせています。先人達は昔からの知恵として守ってきました。自然の力を活かした面ですと、例えば、薪炭林は落葉樹ではないのですが、1年に1度は葉が入れ替わります。落葉して腐葉土が、保水力を持ち、養分を供給して急傾斜の梅畑を守っています。



この傾斜地ではどうしようもないのですが、健康に気を使いながら農作業をしています。この地域には15戸の農家がありますが、80代を過ぎた方も5人ほど

います。やはり健康には非常に注意しています。先人達は、梅は健康に良いんだと風邪や食あたりの時には必ず梅を食してきた歴史があります。健康に良いことは間違いありません。今も毎日1粒以上を食べています。

レトルト食品が進む現代では、若い人の梅消費が少ないですが、世界農業遺産の注目をいただきながら、私どももこれからも色々と切磋琢磨しながら、世の中の人たちに健康食品として提供できるよう、そして地域を盛り上げていきたいと思っています。

ここは、非常に海拔が高く、一番高い展望台では標高が400mあります。2月になりますと全山が梅の花で真っ白になります。それを楽しみに来て頂くお客さんがおり、中には東京からお越しになられます。こういった方々との交流を楽しみにして、そして地域としては1年の中での一大イベントとしています。



青いネットが見えていますが、収穫期にはこれを全山に敷き詰めます。傾斜を利用して、完熟した梅がネットの上を転げ落ちてきます。そして、下でかき集めまして滑車で収穫しています。25年ぐらい前ですが、ネット式が流行しまして、害虫防止にもなりますし、衛生的にも良いと言うことで、今も続いています。

このように、私どもはこの地でささやかな暮らしをしております。それでは、色々と御質問があると思いますのでお受けしたいと思います。(参加者の皆様から様々な質問がありました。)

紀州石神田辺梅林

紀州石神田辺梅林は、梅の産地・田辺市を代表する梅林で、その広大な梅畑は「一目30万本」と謳われます。また梅林としては近畿屈指の標高(約300m)を誇り、そこからすり鉢状に梅畑と里山を臨むロケーションが当梅林最大の魅力です。そして遊歩道で標高約400mの「大蛇峰展望台」まで登れば、太平洋を遠景にさらに一帯を見渡すことができ、誰もがその雄大な景色に感動を覚えることでしょう。(石神梅林パンフレット、Facebookより)



紀州備長炭記念公園

紀州備長炭について

紀州備長炭発見館では、世界一の品質といわれる備長炭の歴史や用途をわかりやすく解説していただきました。

「備長炭」の呼称は、今から300年ほど前から使われるようになりました。当時、紀州藩の炭問屋、備長屋長左衛門がその名付け親とされています。他の炭と区別するために自分の名前を付け販売をしたのが始まりです。元禄時代、江戸ではうなぎの蒲焼きなどに炭が使われており、備長炭は、江戸の問屋にも送られました。備長炭の持つ特徴が大好評を博し、その名が江戸一円に広まり人気商品になったといわれています。

紀州備長炭発見館



(解説の続きは、紀州備長炭発見館(入館料が必要)へぜひお出かけください。)

紀州備長炭記念公園 (紀州備長炭発見館)

備長炭記念公園では、備長炭発祥の地である秋津川の紹介と、備長炭の製炭過程を紹介しています。伝統的なものの影が薄くなりつつある今、後世に残したい、残さなければならないものの一つが備長炭です。ここを訪れた人が炭に興味を持ち、焼きたいという希望があれば、住み込みで作業できる設備もあります。



紀州備長炭発見館では、木炭の歴史や文化あるいは種類・用途などをわかりやすく解説。また、公園内にある炭窯では備長炭の製炭が実際に見られ、一層木炭への理解を深めることができます。(田辺市ホームページより)

J A 紀南ファーマーズマーケット紀菜柑



J A 紀南ファーマーズマーケット紀菜柑

紀南地方のファーマーズマーケットでは最大級。

「紀菜柑（きさいかん）」は、地場でできた農産物や加工品を地場の方々に消費してもらうという、J A 紀南の「地産地消」の拠点施設。多彩な農業の振興と、新鮮で安心な農産物の供給をはかり、地域の皆様の期待と信頼に応えたいと考えています。（J A 紀南ホームページより）



帰りの車内にて

閉会挨拶

準備会副会長 窪田 雄二（滋賀県漁業協同組合連合会）

皆さま、今日一日たいへんご苦勞様でした。世界農業遺産の準備会が設立され、漁業協同組合連合会の専務理事という立場で参画しております。



エリ漁など琵琶湖の漁業関係についても、滋賀が目指す世界農業遺産には大いに関係があるということで、良い話だなと思っていましたし、ぜひ協力をしなければと考えています。

本日、各地での話を聞いておきますと、やはり世界農業遺産の認定は簡単ではないなと思いました。今後、日本からの認定は一層厳しくなりそうですし、また裾野が広い農業や漁業など滋賀が目指す世界農業遺産は、エリアが広いといった課題もありますが、皆様とともに色々な議論をしたり、事務局へ意見を出したりするなど、この取組には大きな広がりが必要ではないかと思います。

今の滋賀県の知事は三日月知事ですが、嘉田前知事時には、琵琶湖を中心に世界の自然遺産に！と、壮大な事も言っておられました。自然遺産だけでなく生活も含めた幅広い世界遺産に！ということでしたけど、それについては、叶いませんでした。たとえ叶わなくても、議論がされたことは意義があったことだと思います。

今後もあらゆる機会にこの世界農業遺産をですね、色々ところで話題にしていただくなり、認定を目指す取組や事業に御参画いただくなりして、御理解と御協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は、たいへん御苦勞様でした。ありがとうございました。

世界農業遺産「先進地視察研修会」

アンケート結果

平成 28 年 12 月 19 日(月)

先進地現地視察研修会でのアンケートとりまとめ結果
(参加者 36 名 うち回答 34 名 : 回答率 94%)

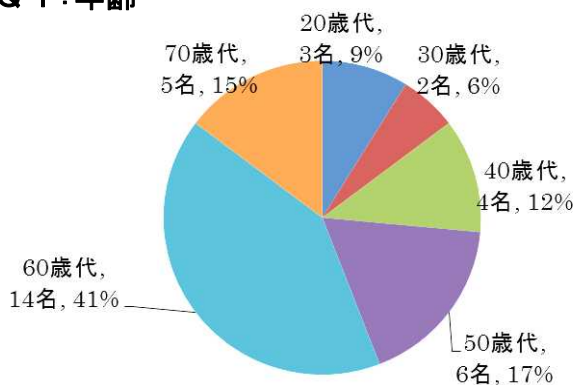
Q 1 : あなたの年齢を教えてください。(あてはまるものひとつに○)

- ① 10 歳未満 ② 10 歳代 ③ 20 歳代 ④ 30 歳代 ⑤ 40 歳代
⑥ 50 歳代 ⑦ 60 歳代 ⑧ 70 歳代 ⑨ 80 歳以上

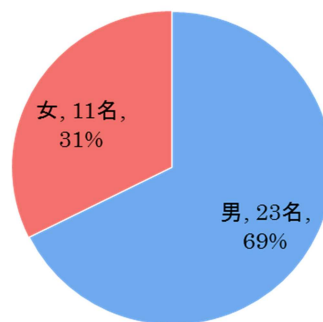
Q 2 : あなたの性別を教えてください。(あてはまるものひとつに○)

- ① 男性 ② 女性

Q 1 : 年齢



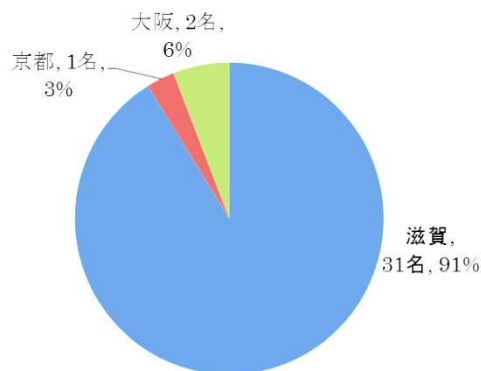
Q 2 : 性別



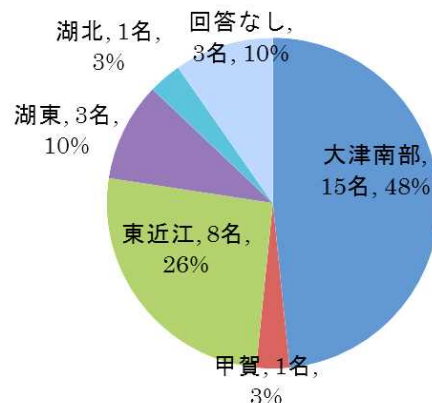
Q 3 : あなたのお住いを教えてください。(あてはまるものひとつに○)

- ① 滋賀県 (市・町) ② 京都府 ③ 大阪府 ④ その他 (県)

Q 3 : お住まい

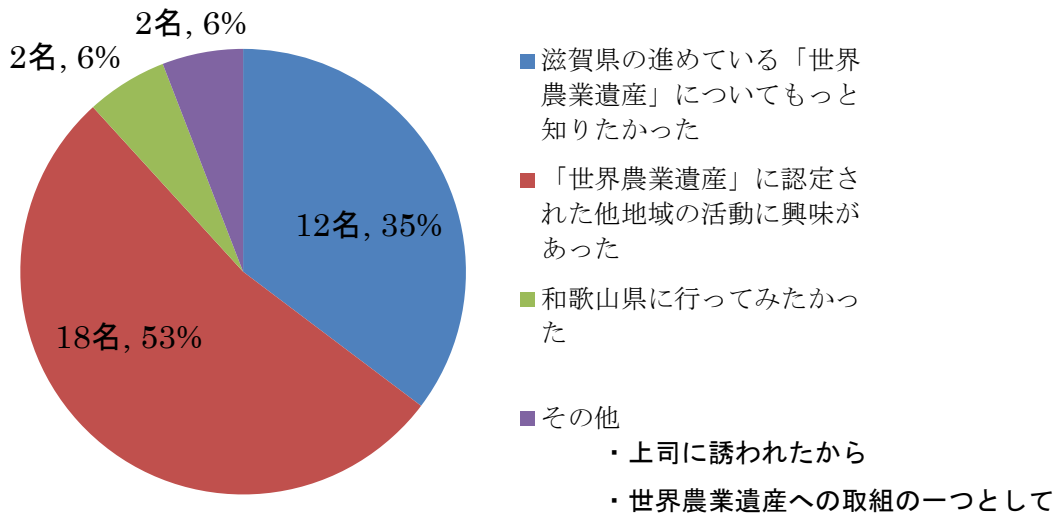


Q 3 : 県内の内訳



Q 4 : 参加申し込みのきっかけはどのようなものでしたか。
(あてはまるものひとつに○)

- ①滋賀県の進めている「世界農業遺産」についてもっと知りたいと思ったから
- ②「世界農業遺産」に認定された他地域の活動に興味があったから
- ③和歌山県に行ってみたかったから
- ④その他



Q 5 : 本日の研修会の感想をお聞かせください。
(あてはまるものひとつに○)

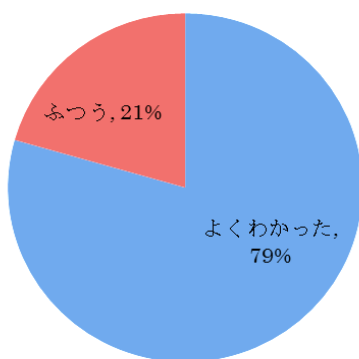
a) バス内での視察先に関する行程等の説明

- ①よくわかった
- ②ふつう
- ③あまりわからなかった
- ④その他

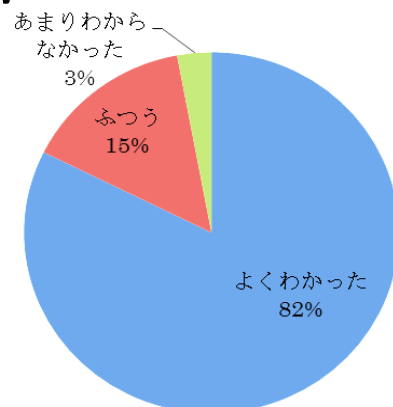
b) みなべ町うめ振興館内で認定地活動等の説明

- ①よくわかった
- ②ふつう
- ③あまりわからなかった
- ④その他

a) バス内



b) うめ振興館内



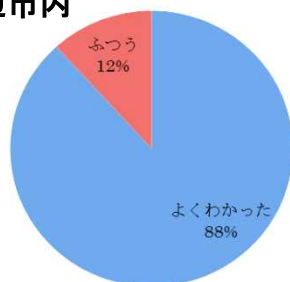
c) 田辺市内の施設での説明

- ①よくわかった ②ふつう ③あまりわからなかった ④その他

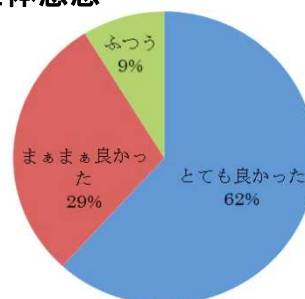
d) 本日のツアー全体の感想

- ①とても良かった ②まあまあ良かった ③ふつう ④あまり良くなかった
⑤良くなかった ⑥その他

c) 田辺市内

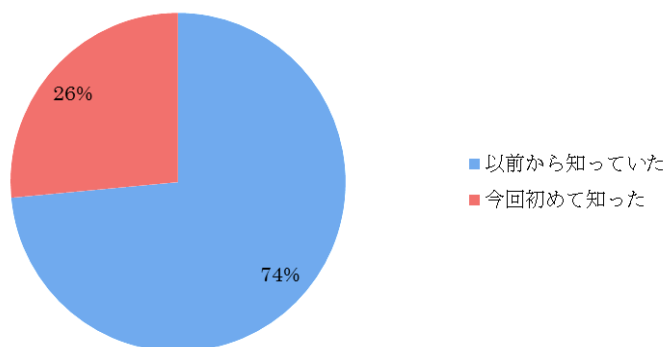


d) 全体感想



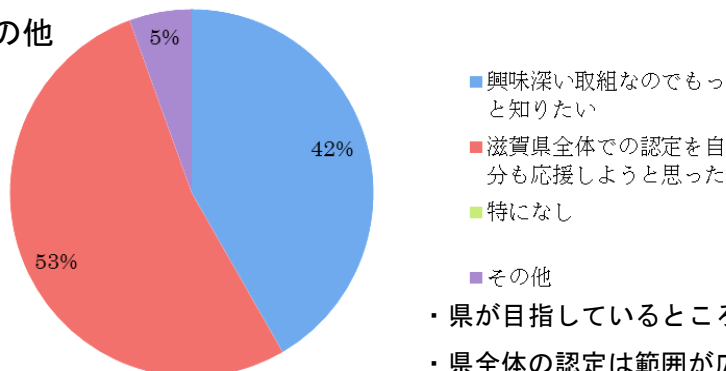
**Q 6 : 「世界農業遺産」という言葉は以前からご存じでしたか。
(あてはまるものひとつに○)**

- ① 以前から知っていた
② 今回、初めて知った



**Q 7 : 滋賀県が「世界農業遺産」認定を目指していることを知って
どう感じましたか。(複数回答可)**

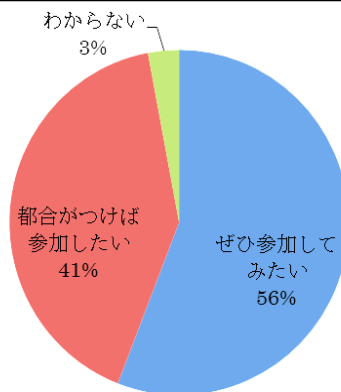
- ①興味深い取り組みなのでもっと知りたいと思った
②滋賀県全体での認定を自分も応援しようと思った
③特になし
④その他



- ・県が目指しているところを説明してほしい
- ・県全体の認定は範囲が広く難しいのでは
- ・内容がみえてこない。

Q 8 : 今後このような研修会、ツアー、シンポジウムなどがあれば、参加したいですか。(あてはまるものひとつに○)

- ①是非参加したい
- ②都合がつけば参加したい
- ③わからない
- ④参加しない
- ⑤その他



Q 9 : 本日のような研修会やツアーがあった場合、どの程度まで費用を負担してもよいとお考えですか。(あてはまるものひとつに○)

- ① (昼食代を含めて) 1,000円~1,500円
- ② (昼食代を含めて) 2,000円~3,000円
- ③ (昼食代を含めて) 5,000円まで
- ④ 内容が魅力的であれば、特に価格に関係ない
- ⑤ その他



・ 今回の費用負担は1,080円 (昼食代のみ) でした。

Q 10 : ご意見やご感想など自由にご記載ください。

- ・ もう少しゆっくり見学したい場所があった。
- ・ 時間にゆとりがあると良かった。
- ・ 1か所、1か所に時間が取れば良かった。
- ・ 少し日程がハード
- ・ 滋賀県のいろいろな生活を知る機会にもなった。
- ・ 滋賀県の取り組みを紹介・PRして欲しい。
- ・ これからも各先進地のツアーを実施して欲しい。(特に石川県佐渡地域)

- ・いろいろな地域に行き、勉強させてもらいたい。
- ・滋賀県内の研修もして欲しい。
- ・バスに乗っている時間を利用して交流する場を作ってはどうか。
- ・参加者同士の交流のきっかけづくりを企画するとより効果が生まれる。
- ・参加者が相互に認定に向けた取組についてディスカッションする場の設定。
- ・色々な立場の方が参加されているので、その方々の意見を提供してほしい。
- ・バス運転手、事務局職員ともに丁寧な対応で良かった。
- ・和歌山は6次産業化でできているが、滋賀は特徴のある農作物が少なく、ストーリーを作るのが難しい気がする。ゆりかご水田だけでなく、水ヨシ帯造成による稚魚の育成や過去の天井川（野洲川・草津川）の河口付近の施設園芸、飼育頭数の多い肉牛生産なども取り上げて欲しい。
- ・今回の視察地は「ウメ」というテーマで非常にわかりやすかったが、滋賀県は「琵琶湖との共生」というテーマでわかりにくいと感じる。
- ・滋賀県の認定を目指す参考となった。組立てで（滋賀県に）欠けている点を埋められそうに思う。ストーリーを組立て、NPOや住民、行政がどこを担うか話し合えると良い。

Q 11：「世界農業遺産」認定に向けて期待することや応援メッセージなどご記載ください。

- ・滋賀県や滋賀の農産物、環境について多くの人に知ってもらえるよう頑張ってください。
- ・時間があればこれからも応援に行きたい。
- ・認定に向けて、関係者、県民が協力しあって進めたら良いと思う。
- ・日本、世界に誇れる文化的な農業遺産にしたい。
- ・認定を目指すことが更なる環境保全の意欲向上に繋がればと思う。
- ・農業活性化を引き起こす県民の意欲アップを積極的に進めて欲しい。
- ・人の営みの中に農があるという観点で中味の選定をして欲しい。
- ・滋賀県の農業応援になるので是非、認定を。
- ・滋賀県の更なる発展となりますように、様々な取り組みを期待します。
- ・アジア地域でのG I A H S取得は難しくなっていると聞いが、湖国として独自の文化があるので、認定は可能と思う。

アンケート結果について

お疲れのところ、アンケートに御協力いただきありがとうございました。皆様方からの御意見を大切に、今後もこの「世界農業遺産」認定を目指した取組を進めて参りますので、引き続き取組への御参画をよろしくお願いいたします。